

# おかしな話

## 松川の河童

昔のことだと、松川には、河童が住んでいた。糠野目のお百姓が田の仕事を終えて、泥だらけになった馬を松川に連れて行き洗っていたら夕暮れになり暗くなったので馬を急いで引き上げようと「しい、しい早くこい」と、綱を引くけれど馬はでんとしたまま動かなかった。

「いったい、どがえしたもんだ」力を込めて引つ張ったら馬のしっぽに黒いものがくっついていたら、岸に上げて見たら頭の上から水をポタポタ垂らしながら、馬のしっぽをつかまえていたもんだ。

「こりゃ、お前はだれだ。」お百姓がどなたたら、びっくりした河童が手をはなしたもんだから、馬も驚いて前足をひょいと上げた。

「そんないたずらをすつと踏みつぶすぞ」したら、河童は、「命だけは、お助けください。」と、言ったが

「だめだ。毎年ここで水泳ぎの子供が水の底に引きずり込まれ死ぬのは、お前のいたずらだべ。悪たれ河童は馬に踏みつぶさせる」と、怒鳴った。そしたら、河童は申し訳なさそうに頭を下げだ。 「これからは、決して子供の命をねらったりしませんから、命だけはお助け下さい。」

「そんなことをいったって、川の中に戻れば、また何を考えつかわからねえ。ほんじゃ能証文を書け。」と紙を出してやったら

河童は、その紙に頭の上の水をつけながら、

もじゃもじゃと字を書いて、

お百姓に差し出した。 「はあ、こいつが河童の能証文なんだな」とおもったが、

お百姓は、重ねて「おらにも何か置いて行け」と、言ったら、

「それでは、傷かすりの作り方を伝授しますから」と教えて言った。 その話を聞いたお百姓は、たいへん喜んで、その能証文を譲り受けて、

今でも残っているというのだ。 「そういえば、あれから松川で溺れる子供がいなくなった。河童も約束を守っているから、

お天王さまに供えた初もぎのキツリは、河童のために流してくれたりええべ」と、いうことになって初もぎのキツリを松川に流すことにしたんだと。

とーびんと。

町報たかはたより

松 高 森 啓

糠野目生涯学習館



## 『かっぱの血流し』

遊びつかれたかっぱの川次郎はポカポカ陽気の中で昼寝をし、つい寝すぎてしまいました。気がついたらもう陽がしずむ時こく、川次郎はあわてて川に帰っていきました。しかし急ぐあまり、だいじなだいじな頭の上の皿をわすれて行ってしまったのです。ちょうどそこに、心やさしい糠野目の「童」がやってきました。かっぱの皿を見た童は、さぞやかっぱがこまっているだろうと思い、川次郎へのメッセージや俳句、そして自分のねがい事などを書いてお父さんといっしょに川に流し、かえしてあげました。

そして皿を流した数日後、童のまわりでふしぎな出来事がおこりました。自分のねがい事がつぎつぎとかなえられていくのです。それを見たお父さんは、日ごろ悪さをしていたかっぱが心をあらため「恩がえし」をしてくれたにちがいないと、地域の人々に広く伝えたということです。

(糠野目小学校 高橋校長先生のものがたり)